

基本情報

施設名	アイン金沢文庫保育園
法人名	中央出版株式会社
所在地	横浜市金沢区釜利谷東2丁目19-35
電話番号	045 (785) 0115
評価年度	平成27年度
評価機関	株式会社 R-CORPORATION

評価方法

自己評価	
(実施期間) 平成27年9月9日～ 平成27年9月18日	1. 説明を聞いた後、常勤・非常勤すべての職員が自己評価票を各自記入しました。 2. 全職員の意見収集の上、園長・主任でまとめた。
評価調査員による評価	
(実施期間) 平成28年1月14日 平成28年1月15日	評価調査者3名が、2日間を通し、園内の視察、保育内容、子どもの観察、園長のヒアリング及び書類確認により総合的に評価を行いました。1日目、職員インタビューを4名に実施し、お昼は4、5歳児と共に食事を行い、食育の観察と共に保育士とのかかわりを観察しました。また、散歩に同行したり、延長保育での子どもの様子を見学したりしました。2日目は利用者本人調査を実施しました。
利用者家族アンケート	
(実施期間) 平成27年12月1日～ 平成27年12月24日	1. アンケート用紙は、全園児の保護者に、園より配布しました。(欠席が続いている児がいるため、49家庭に配布) 2. 各保護者より、同封の返信用封筒で評価機関宛に直接返送してもらいました。
利用者本人調査	
(実施期間) 平成28年1月15日	4歳、5歳児異年齢グループの「だいち」、「おひさま」から11名を選定してもらい、11名と一緒に30分程度、質問6項目のインタビューを実施し、子ども一人一人の意見を聞き、集計・分析し、子どもの姿を通して園生活、保育士とのかかわり等を確認しました。

第三者評価結果報告書

《総括》

対象事業所名	アイン金沢文庫保育園
経営主体(法人等)	中央出版株式会社
対象サービス	保育所
事業所住所等	〒236-0042 神奈川県横浜市金沢区釜利谷東 2-19-35
設立年月日	平成 25 年 4 月 1 日
評価実施期間	平成 28 年 1 月 ～28 年 3 月
評価機関名	株式会社 R-CORPORATION
評価項目	横浜市版

総合評価（優れている点、独自に取り組んでいる点、改善すべき事項等）

●アイン金沢文庫保育園の立地・概要

アイン金沢文庫保育園は、中央出版株式会社の運営であり、京浜急行線金沢文庫駅から徒歩で7分程度の場所にあります。この辺りは、鎌倉時代の中期に北条実時が設けた武家の文庫（図書館）があり歴史が古く、近くに金沢八景があることでも知られる、風情ある名勝です。現在は京浜急行の特急停車駅の「金沢文庫」、「金沢八景」駅を中心にシーサイドラインも走る利便性の良い地であり、駅の名称からも日本の歴史が偲ばれます。アイン金沢文庫保育園は、金沢八景の「小泉の夜雨」付近に位置し、バスでは金沢文庫駅から野村住宅行の2つ目の赤井バス停下車1分であり、バス経路から、地域は丘陵が順次、団地として開発されてきた様子が分かります。

アイン金沢文庫保育園は現在、定員は79名の中規模園で、2階建ての柔らかい色合いの園舎が印象的です。園舎内は、0歳児6名、1歳児12名、2歳児13名、3歳児以上は各16名の保育園です。1階は、玄関入って左側に0歳児保育室があり、突き当りに1歳児保育室を設けています。2階は、階段を上り右側に5歳児保育室、4歳児保育室、3歳児保育室を配置し、左側に2歳児保育室となっており、地上と屋上に園庭を設けています。アイン保育園の「アイン」の意味は、1つ目は『ドイツ語の「1」：いちばんの子育てセンター、いちばん愛される園』、2つ目は『「愛+in」：子どもたちに愛情をinする』、3つ目は『アインシュタインの「アイン」：教育を实践して、未来を担う子どもたちの育成』の3つで構成されており、具現化を目指した保育を進め、園のロゴも「アイン」の意味を込めて示されています。アイン金沢文庫保育園はアットホームな雰囲気、子どもたちは園生活を満喫しています。

●アイン金沢文庫保育園の保育の方針

アイン金沢文庫保育園は、開園時の事業理念である『知・徳・体』の「生きる力」を継続し、新しい事業理念として『遊びと学びは仲良し』を掲げ、保育の質の向上を根幹に、「遊びと学びは仲良しをモットーに」、「学ぶ楽しさをいっぱい感じてもらう保育」を展開しています。保育目標は、「好きな遊びをみつけてお友達と楽しくいっぱい遊べる子ども」、「いろいろなものに興味をもち、意欲的に挑戦する子ども」、「思いやりの心をもった優

しい子ども」とし、『自由保育』・『モンテッソーリ教育』・『共育』をコンセプトとして保育を推進しています。特に、「モンテッソーリメソッド」は、イタリアの女医で教育家のマリア・モンテッソーリが創始者であり、大人が教えるのではなく、子どもが自らの力で育って行こうとする「内面の成長」を生かす教育方法で、アイン保育園の保育の柱となっています。教育教材は、中央出版株式会社で製造販売されている、モンテッソーリメソッドの遊具（プルチノ）と、他社のモンテッソーリ教具も活用して保育にあたっています。

《優れている点》

1. モンテッソーリ教育の推進

アイン金沢文庫保育園で展開しているモンテッソーリ教育の特徴は、「自由に個別活動をする」、「子どもの中の自主性を重んじる」、「異年齢保育で活動する」です。「自由に個別活動をする」では集団で同じことをするのではなく、自由に個別活動を行い、自分自身で活動を選び、自分のリズムで、納得のいくまで繰り返し活動しています。「子どもの中の自主性を重んじる」では、子どもの知的好奇心が自主的に表れるよう、「自由な環境」設定を重視して子どもに提供しています。「異年齢保育で活動する」では異年齢混合のクラスの中で、子どもたちがお互いから学び合う機会を大切にしています。アイン金沢文庫保育園では、異年齢保育を中心にしながら年齢保育も併せて取り組んでいます。モンテッソーリメソッドの教育を核とし、整備された環境の中で、子どもたちは達成感、満足感、自信、集中力を高め、生きる素地を身に付けています。

2. 本部機能の活用による職員の資質向上の取り組み

アイン弘明寺保育園を初めとして、中央出版株式会社保育事業本部（以下、法人本部）と系列全園が一貫して、職員の資質向上を最優先課題として保育士のレベルアップに取り組んでいます。法人本部では各保育士の年間目標を設定した目標管理を導入し、年2回、園長面談と、年1回法人本部面談を実施し、年度末には各保育士の達成状況、反省点を確認し、次の課題につなげて質の向上につなげています。さらに、研修・教育の充実を図り、夜間の小研修を年4回実施し、法人本部主催の1日間研修を年2回、日曜日に実施する他、内部研修の充実にも力を入れて研鑽を図り、保育士のステップアップに取り組んでいます。内部研修には非常勤職員も参加し、正規職員と同様に質の向上を目指しています。特に、モンテッソーリメソッドの教育を推進するために、保育士のボトムアップが重要と考え、これら研修の充実と実務上のOJT教育により、保育士は順調に成長しつつあります。

3. コンセプトである「共育」の推進

アイン保育園の運営において、「コンセプト」となっている『共育』の語源は、子ども、保護者、地域の方々と保育園を含む法人本部関係者が、互いに助け合い、勉強しながら「共に育っていく」という想いで創られた言葉です。また、子どもは年齢別クラスや異年齢保育を通して様々な子どもたちと共に育ち、保育士も保護者も子どもをサポートしながら共に成長して行きます。『共育』の保育は、年間指導計画の中に随所に取り入れ、

実践しています。保護者へは、『共育』の考え方について入園のしおりに明示し、保護者懇談会（5月）で説明を行い、園だよりにも掲載して理解を促しています。園では、朝（7:00～8:30）と夕（16:00以降）は合同保育を行い、大きな家庭、たくさんの兄弟として、上の子・下の子・真ん中の子どもが互いに支え合い、育み、『共育』が実践されています。

《更なる期待がされる点》

1. 更なる地域との交流の推進

アイン金沢文庫保育園の園長は、地元の出身であることから、地域の知人や地域についての知識が功を奏し、園設立3年未滿に係らず、地域との良好な関係がすでに築かれています。保育園は地域の大切な文化施設であり、子育てを中心に地域に貢献するという使命を心得、現在、金沢区の取り組みである「赤ちゃんの駅」を実施し、近隣の子育てにも尽力しています。さらに、地域の学校訪問、高齢者施設との連携、さらなる町内会との協調や、地域の方たちが参加できるプログラムの強化等、まだまだ地域に貢献する活動を意識して取り組む意欲を持ち、地域の子育て支援、そして、地域の高齢者との交流強化によりアイン金沢文庫保育園の子どもたちとの良い影響を波及させていくよう、一層の成果を期待しています。

横浜市福祉サービス第三者評価結果

アイン金沢文庫保育園	
評価年度	27年度
結果公表	28年 3月
評価機関	株式会社 R-CORPORATION

領域Ⅰ 利用者本人(子ども本人)の尊重 領域Ⅱ サービスの実施内容 領域Ⅲ 地域支援機能
領域Ⅳ 開かれた運営 領域Ⅴ 人材育成・援助技術の向上 領域Ⅵ 経営管理

評価領域Ⅰ 利用者本人(子ども本人)の尊重

評価分類	評価の理由(コメント)
<p>I-1 保育方針の共通理解と 保育計画等の作成</p> 	<p>●アイン保育園の事業理念は基本方針に沿い、「遊びと学びは仲良し」であり、園目標は、「好きなあそびをみつけてお友達と楽しくいっぱいあそべる子ども」、「いろいろなものに興味をもち、意欲的に挑戦する子ども」、「思いやりの心をもった優しい子ども」とし、利用者本人を尊重した内容になっています。理念・法人・園目標は、玄関に掲示して常に目にできるようにし、職員に対しては、モンテッソーリ教育(大人が教えるのではなく、子どもが自らの力で育って行こうとする「内面の成長」を生かす教育方法)を根幹に保育を推進する環境を整え、職場内研修を行い、非常勤職員も含めて理解を深めています。今回、第三者評価を機に、全職員に理念や基本方針について職員会議等で再確認をしました。</p> <p>●保育課程は、地域の実態、周囲の環境を考慮し、理念、方針と共に、モンテッソーリ教育をベースにし、子どもの育ちの最善の利益を第一に考えて作成しています。保育課程の作成では、前年度の年間指導計画の反省を主任がまとめ、次年度への展開を全職員で考えて組み入れています。保護者へは、入園のしおりに保育課程の骨子を盛り込み、入園説明会や懇談会で説明しています。また、行事のお知らせにも、保育方針に基づいたねらいや取り組みについて記載して理解を促しています。</p> <p>●保育課程に基づき、年齢ごとに年間指導計画を作成し、月間指導計画を立てて保育を実践しています。保育のねらいは、理解できる子どもには、朝の集まりの時に「今日の話」からわかりやすく伝えています。子どもからの意見や要望は、意向を選択しながら、子どもの育ちに現れるように汲み取り、言語化できない子どもは、かかわりの中で態度や表情などから気持ちを汲み取っています。さら</p>

	<p>に、担任以外の保育士からの気づきを会議で出し合い、実践を評価し、職員間で高めるよう努めています。</p>
<p>I-2 子どもの発達や状況に応じた適切な援助の実施</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ●入園前に入園説明会と保護者と子どもの個人面談を行い、子どもの様子を観察し、面談結果は職員会議で報告し、共通認識を図っています。アレルギーを持つ子どもの場合は、必要に応じて栄養士が面談しています。面接時のチェックシート、児童票、健康台帳はファイルし、必要に応じて職員が閲覧できるようにし、日常の保育に生かしています。 ●新入園児の受け入れの際は、短縮保育（ならし保育）を行い、基本的に1週間を目安に実施し、保護者の事情や子どもの様子に応じて臨機応変に対応するようにしています。0歳、1歳児では、保育士はグループ制を採用しながら、全体で子どもを見守るようにしています。進級児は持ちあがりの担任が担当するよう配慮しています。保護者への連絡は、0歳～2歳児では連絡ノートを活用し、保護者との連携を密にし、口頭でも伝えるようにしています。3歳～5歳児も連絡ノートを用意し、連絡ノートに一日の様子などを記載し、保護者と連携を図っています。 ●指導計画は、子どもの自主性・主体性を育み、子どもが主体性を発揮できるような指導計画とし、計画は柔軟性を持たせ、週案で具現化を図るようにし、毎月、ミーティングで月案の反省と見直しを行い、次月に反映しています。評価、改訂については、月1回、全体会議時に全職員で検討し、情報を共有しています。また、保護者の意向、要望を聞き、保護者参加の行事後のアンケートにより意見を抽出し、回答を行い、保護者の要望等は指導計画に反映しています。
<p>I-3 快適な施設環境の確保</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ●施設環境について、保育室、共用部分共に1日1回以上、保育士が掃除を行い、清潔に保っています。各保育室には間接光を取り入れ、温・湿度の管理を行い、常に通風・自然換気に配慮しています。また、音楽や保育士の声について配慮し、特に屋上の園庭では大きな音は控え、音楽は必要に応じて使用するようにし、近隣への配慮と共に、子どもが落ち着いて遊べる環境作りをしています。 ●乳児保育室のある1階に沐浴設備を備え、体を清潔に保ち、沐浴槽は毎日清掃し、衛生に保っています。温水シャワーの設備は、1階、2階、屋上園庭に設置し、清潔に過ごせるように活用しています。各設備は毎日、清掃し、使用后その都度清掃を行い、清潔に保っています。 ●子どもの発達に応じた環境作りでは、低年齢児保育室では、カーペットや畳の部屋を区画し、保育士が目の届く範囲内で、小集団で

	<p>遊べるスペースを設けています。また、食事と午睡の場所を区別して確保するように工夫して配慮しています。1階のホールは、異年齢の子どもが触れ合う場として活用し、カーペットを敷き、絵本が読めるスペースを設置するなど、ゆったりと過ごし、交流できるよう活用しています。</p>
<p>I-4 一人ひとりの子どもに個別に対応する努力</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ●3歳未満児については、一人一人の状況に応じて保育目標を設定し、個別指導計画を作成しています。特別な課題がある子どもについては、月間指導計画の中に個別配慮の欄を設け、対応しています。個別の目標・指導計画は、定期的な見直しと共に、子どもの発達状況に合わせ、柔軟に自己評価および見直しを行い、保育にあたっています。 ●個別のトイレトレーニングや、箸の導入などについては、保護者と連携をとり、同意を得て、協力しながら行っています。 ●子どもの記録としては、児童票・成長発達記録を作成してファイルし、職員間で共有を図り、子ども一人一人の発達に応じた対応をしています。また、引き継ぎノートを作成し、毎日の保育状況やケガ、特記事項などを記載しています。記録は、鍵のかかる書庫に保管し、必要に応じて全職員が閲覧できるようにしています。また、保育所児童要録を作成し、入学先の小学校に提出しています。
<p>I-5 保育上、特に配慮を要する子どもへの取り組み</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ●個別のケースについて、配慮点やかかわり方などを共有し、全職員で対応ができるように努めています。南部地域療育センターの巡回訪問指導を受け、日々の保育に生かしています。 ●障害児保育のための環境整備では、バリアフリーを備え、オストメイト対応のトイレも設置して環境を整えています。関係機関との連携では、区役所の保健課、南部地域療育センター、南部児童相談所と必要に応じて相談・指導を受けられる体制を構築しています。担任は、自主的に学習して情報提供を行い、他の職員との情報共有を図り、園全体で対応できるようにしています。情報は職員間で共有しています。 ●虐待に関するマニュアルを整備し、全職員に周知し、職員は理解しています。虐待予防・早期発見については、毎日子どもの健康観察を行い、気にかかる子どもや保護者について配慮し、登降園時は保護者に挨拶を行い、言葉をかけ、保護者が話しやすい雰囲気作りをしています。関係機関とは連携して相談ができる体制を構築しています。 ●アレルギー疾患のある子どもの除去食対応では、かかりつけ医からの指示に従い、保護者と連携を密にして適切に対応しています。全職員に、アレルギー疾患について必要な知識や情報を周知し、職

員は把握しています。給食時は、名前、アレルギーを記入したラップ、専用トレイを使用し、園長、栄養士、担任保育士が確認し、誤食がないよう徹底しています。除去食のおかわりは誤食事故防止策として提供していません。

●文化が異なる子どもへの対応については、文化や生活習慣、考え方の違いを尊重し、モンテッソーリ教具を通して積極的に文化教育として取り組み、地球儀、世界地図パズル、国旗の積み木等での国の場所等を知らせ、自然に身近に様々な文化に触れられる環境作りをしています。お正月には、クイズで「あけましておめでとう」を現地語で挨拶したり、外国の料理なども紹介し、文化や生活習慣の違いを自然に理解できるよう心がけています。外国籍に係る保護者へは、英語が話せる職員が在籍しているので、英語対応ができるようにしています。

I-6 苦情解決体制



●保護者からの苦情などに関して、対応について園のしおりに記載し、第三者委員を明示し、園内にも貼り出しています。また、適正化委員会等の他機関の苦情解決窓口も紹介しています。保護者から要望や苦情を出しやすいよう、玄関に意見箱を設置し、行事後には保護者アンケートを行い、年2回、法人本部による全体アンケートも実施しています。法人保育事業本部も利用者の意見や要望を聞く窓口を設けています。園長、主任は日頃から保護者と信頼関係を深めるようコミュニケーションに努め、相談や要望が言いやすい環境作りに配慮し、個別面談も随時、受け入れています。子どもに対しては、日常の様子を把握し、態度や表情から意向を汲み取るようにしています。

●苦情解決マニュアルを備え、マニュアルは職員に周知しています。苦情解決にあたり、法人本部と連携し、必要に応じて外部の機関（金沢区役所こども家庭支援課、横浜市福祉調整委員会、児童相談所、適正化委員会）とも連携を図っています。また、苦情解決第三者委員（地域民生委員、他園主任保育士・保育士）との懇談会を開催し、情報交換を実施しています。要望や苦情を受ける体制では、会議などで苦情の解決策を周知し、苦情、要望があった場合は園長に報告して対策を図る体制を整えています。過去にあった苦情・トラブルや要望に関しては、データを蓄積および整理し、問題解決と再発防止に活用しています。

評価分類	評価の理由(コメント)
<p>II-1 保育内容 [遊び]</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ●子どもが自主的に活動できるよう、玩具、教材等は子どもの目線に設定し、自分で取り出して片づけられるようにし、年齢や発達に応じた遊びの環境を整えています。子どもがそれぞれの遊びに集中できる環境として、テーブル、マット、つい立を活用し、可動式のコーナーを設け、カーペットを敷き、子ども一人一人が落ち着いて好きなことをして遊び込める時間を十分に確保しています。 ●遊びが一斉活動に偏らないよう、子どもの主体性を尊重し、一人一人が興味・関心を持って遊べるように玩具、教具等を用意し、子どもの発想から遊びが展開できるよう環境を整えています。子どもは、落ちついて遊びに集中しています。ルールのある遊びを取り入れた活動では、ルールを守ることの大切さや、ルールを守って友達たちと遊ぶ楽しさを知るように取り組んでいます。鬼ごっこや、大縄跳びなど、活動的な遊びも屋上の園庭で行っています。今後、運動遊びを取り入れるよう計画中です。 ●動植物の飼育や栽培の取り組みでは、園庭でプランターにお米を栽培し、収穫し、藁でお正月用に「しめ縄」を作りました。飼育では、金魚を飼い、夏はカブト虫を育て、成長を観察し、命の尊さを学んでいます。 ●散歩を通して、子どもたちは行き交う地域の方々と挨拶を交わしています。週1回は給食の買い物に近所の肉屋、八百屋にでかけ、お店の人たちと交流しています。園の近くのお寺とは交流があり、行事に招待していただいたり、津波の際の一時避難場所にしていただくなど、ご厚意をいただいています。園外活動では海の公園に凧揚げに行ったり、3歳児はバスで、4歳、5歳児は徒歩で自然園へ行ったり、様々な場所に行き、四季折々に自然と触れ合う機会を設けています。 ●子どもが自由に自分の気持を表現できる機会として、保育室に廃材や素材を用意し、自由に遊び、粘土遊びなど、保育士が手伝いながら取り組みを見守っています。また、子どもたちは一人に1冊の自由画帳とクレヨンを保有し、自由に表現できるようにしています。子どもの制作途中の作品は、置ける場所を確保し、一人一人の表現活動が継続できることを大切に配慮しています。また、お楽しみ会の練習ではピアノに合わせて歌を練習し、日常は、わらべうたや、季節のうた、リズムあそびを楽しんでいます。 ●子ども同士のケンカの場合は、保育士は見守りながら、お互いの

話しを聞き、子ども同士で解決ができるように援助しています。乳児では、引っ掻き、噛みつきに十分注意しています。異年齢同士のかかわりでは、3～5 歳児は異年齢保育を行い、関係作りを深めています。

●健康増進の工夫では、園庭ではできない運動や、戸外活動が経験できるよう、天気の良い日は、年齢に応じた公園を選択して散歩に出かけています。戸外遊びでの紫外線対策では、襟足付き帽子を着用し、必要に応じて長袖の着用や、虫よけ対策への配慮をしています。また、砂アレルギーにならないようシャワーで洗い流すよう配慮しています。室内では、定期的にリズム運動や、鉄棒、巧技台、マットを使用して体操やゲームをして元気いっぱい体を動かし、運動能力を高めています。子どもの健康状態は、健康台帳を元に、既往症を持つ子どもに配慮し、子どもの体調に合わせて配慮しています。

II-1 保育内容 [生活]



●園では、幼児クラスの保育について今年度の活動を踏まえて、来年度の保育を異年齢グループで行う試みを進めています。「だいち」グループでの食事はバイキングスタイルを試み、子ども自身で盛り付けを行っています。「おひさま」グループは当番活動を行い、配膳の手伝いをしています。保育士は、無理強いせず、子どもにやさしく話しかけながら楽しく食事が行われています。乳児の授乳や離乳食は、家庭と連携し、授乳時間を連絡ノートで確認し、授乳時間を想定して対応し、抱っこして言葉をかけながら行っています。離乳食は、子どものペースに合わせて対応しています。

●食への関心を持つよう、食育の一環として、保育室で炊飯器を用いてお米を炊く機会を設け、4 歳、5 歳児は 1 日おきに交代で両グループの量を炊飯しています。炊き上がるご飯の匂いも大切な「過程」として食への興味と関心につなげています。食材、調理器具は 1 歳児から触れ、3～5 歳児では月 1 回、クッキング活動を行っています。お正月のおせち作りでは、0 歳児は経験として見る、1 歳児以上はおせちの一部をお手伝いして作りました。また、調理師の仕事を持つ保護者に魚さばきを見せていただく機会を設け、子どもたちの興味・関心につながっています。食事時間については、保育士は時間を強制することなく、柔軟に対応するよう努めています。

●毎月の献立は、法人系列園の栄養士で話し合い、献立を作成しています。月 1 回、特別メニューも提供しています。1 月では干支の申が付いた食事が出されました。献立や食材には旬の季節感を盛り込み、お米にこだわり、秋田の契約農家から無農薬の米を取り寄せて提供し、果物は必ず添えるようにしています。盛り付け、彩、形

状は園の調理担当者が工夫して調理しています。食器は安全性に配慮し、強化硬質磁器を採用し、1歳児では持ち手のないカップを使い、しっかりと両手で持てるようにしています。全年齢で磁器食器を使用し、1歳児以外、コップはメラミンを採用しています。食具は、子どもの発達、年齢に応じて使用しています。

●子どもの喫食状況に関して毎月、給食会議で話し合い、月2回の同じメニューの内、1回目の食べ具合から調理方法等を工夫して対応しています。子ども個々の好き嫌いは保育士が把握し、栄養士に伝え、食材の改善に努めています。バイキングの導入により、子どもが適量を食えることができるようになり、調理担当者は子どもの一人一人の食事量や喫食状況、反応を把握し、調理方法の改善に努めています。

●献立表は、保護者に前月に配布し、給食便りは毎月発行してレシピを掲載する等、情報提供を行っています。給食内容は実物サンプルを展示し、レシピは要望があれば配布する等、保護者の食育・興味・関心につなげています。また、懇談会や行事の機会に給食やおやつを試食を行っています。モンテッソーリの文化教育の一環として食物連鎖の話をし、「食」の大切さ、命のつながりを伝えていきます。

●午睡時は、保育室の温・湿度、明るさなど、睡眠環境に配慮しています。また、布団は呼吸できる布団を採用し、全園児に使用しています。眠れない子どもは無理強いせず、静かに過ごせるよう対応しています。SIDS 予防では、呼吸チェック表を作成し、0歳児は5分ごと、1歳児は10分ごとに記録しています。年長児は、夏過ぎあたりから午睡をせず、就学に向けた環境作りをしています。

●排泄については、個々の排泄のリズムを把握し、保護者と連携を図り、一人一人の発達状態に応じて個別にトイレトレーニングを進めています。2歳児以下は仕草から汲み取り、トイレの必要性を見極めていきます。3歳～5歳児は自分からトイレに行くように促し、排泄に失敗した際は、子どもの羞恥心に配慮し、温水シャワーを利用する等、子どもが気持ち良く過ごせるようにしています。

II-2 健康管理・衛生管理・安全管理 [健康管理]



●健康管理では、健康管理マニュアルに基づき、内科健診（年2回）、歯科健診、尿検査、蟻虫検査、視聴覚検査を実施しています。毎朝、視診を行い、子どもの健康状態を確認しています。乳児は連絡ノートを活用し、口頭の確認も行います。既往症、予防接種の状況は健康台帳に記載し、職員に周知を図り、緊急時に備えています。園では、子どもが保育中に37.5度以上の熱が出た場合は、保護者に一報入れるようにしています。歯磨きについては、1歳の誕生日

	<p>から歯ブラシを持たせるようにし、保育士が仕上げ磨きをしています。年に一度、歯科医による歯磨き指導を受け、適切な健康管理に努めています。</p> <p>●健康診断、歯科健診、各検査等の結果はそれぞれの台帳に記録し、保護者にも伝え、乳児は連絡ノートにも記載して対応を促しています。健康診断日では事前に、保護者に園医に確認したいことを提出してもらい、健康診断は欠席のないよう促しています。嘱託医やかかりつけ医とは連携し、情報を伝え、助言を受けています。</p> <p>●感染症について、登園停止基準や保育中に感染症の疑いが生じた場合の対応は、横浜市基準に則った「感染症に関するマニュアル」に明記されています。登園停止基準等について、保護者には入園のしおりに明文化し、説明しています。保育中に発症した場合は、速やかに保護者に連絡し、相談の上、個別対応しています。感染症が発生した場合は、玄関、保育室入口に掲示して保護者へ知らせ、他の子どもとの交流を控え、感染症の蔓延に注意しています。</p>
<p>II-2 健康管理・衛生管理・安全管理 [衛生管理]</p> 	<p>●園独自に衛生管理に関するマニュアル(法人作成内容に園の事項を追加したマニュアル)を整え、年度末に必要なに応じてマニュアルの見直しをしています。マニュアルに沿って、清掃漏れがないように努めています。衛生管理に関して、マニュアルを基に研修を行い、清潔な環境の確保に努めています。汚物処理の際は、手袋を着用し、手洗後はペーパータオルの使用を徹底しています。</p>
<p>II-2 健康管理・衛生管理・安全管理 [安全管理]</p> 	<p>●安全管理では、建物は耐震構造であり、家具類は備え付けの収納家具を採用し、安全対策を講じています。安全管理に関するマニュアルがあり、職員に周知し、毎日、早番職員により園舎内の安全点検を実施しています。月1回、避難訓練を実施しています。AEDを設置し、研修を受けています。職員は、救急救命法研修(AED含む)に順次参加し、救急救命法を身に付けています。緊急連絡体制は、職員用連絡網を備え、保護者への連絡(一斉メール)体制も整備しています。</p> <p>●事故やケガについては、近隣の医療機関、地域防災拠点、学校の連絡先一覧を備え、事故防止・事故対策については、入園のしおりで保護者に説明しています。保育中のケガは、小さなケガであっても必ず保護者に状況を報告して対応しています。事故報告は、朝のミーティングや申し送りノート、報告書で職員に報告・周知し、検討および改善策を立て、共有を図っています。事故報告書、ヒヤリハット(用紙は事故報告書と同じ)はまとめ、再発防止に役立っています。</p> <p>●外部からの侵入に対して、定期的に不審者を想定した防犯訓練を</p>

実施しています。園の玄関は電子ロックになっており、午睡時は窓や出入り口を施錠しています。また、警備会社に委託契約をして緊急時対応を万全にしています。不審者情報は金沢区役所から入手しています。金沢警察から、スクールサポーターが巡回し、月1回、情報提供を受け、不審者対策訓練にも協力してもらっています。

II-3 人権の尊重



●保育士は、子どもに対する配慮点や、言葉のかけ方、名前の呼び方、援助の仕方について共通認識を図り、より良い保育に努めています。子どもの気持や発言を肯定的に受け止め、一人の個として尊重しています。保育士は、穏やかに分かりやすい言葉で子どもに話し、人格を傷つけないよう配慮しています。職員会議で事例を挙げ、子どもの人権侵害について理解を深めています。

●子どもが友だちや職員の視線を気にせず過ごせる場所を確保し、必要に応じて1対1で話せる場所や、子どもが落ち着ける場所を用意しています。

●個人情報の取り扱いや守秘義務については、マニュアルに沿って、定義・目的について具体的に事例を挙げて全職員に説明し、周知しています。実習生にもオリエンテーションで説明し、誓約書を提出してもらっています。個人情報の取り扱いについては、保護者に説明し、特に、肖像権については留意し、同意書ももらっています。個人情報が記載されている文書、記録は、施錠できる場所に保管、管理しています。

●性差に関する配慮では、子どもの人権と大きく捉え、遊びや行事での役割、持ち物や服装での区別や、グループ分けや整列も性別で区別をすることはしていません。また、教材は子どもが好きな色を選択できるように配慮しています。子どもや保護者に対して、父親・母親の役割を固定的に捉えた話し方や表現はしていません。職員は、無意識な固定観念的な発言は互いに注意し合う体制を整えています。

II-4 保護者との交流・連携



●保育の基本方針について、保護者に対してクラス懇談会で説明し、「園のしおり」、「パンフレット」に保育方針を記載し、園目標は保護者の目に留まるところに掲示して内容の理解を促しています。年2回、法人本部による「保育所に関するアンケート」を実施し、行事後もアンケートを行い、保育方針が理解されているかを把握しています。また、園だよりや連絡帳を通して保育方針を伝えています。

●保護者との情報交換では、園生活の様子や活動内容は、幼児はその日の子どもの様子を記載して掲示し、情報を伝えています。個別の内容については、乳児は連絡ノートを活用し、3歳児は必要に応

じて連絡ノートで伝え、4歳、5歳児は「モンテッソーリの出席カード」（出席ごとにシールを貼る）のカード裏の連絡記入欄を活用し、必要に応じて記載し、口頭でも伝え、保護者と連携を図っています。

●個人面談は、保護者の意向で随時、個別に受けています。クラス懇談会を実施し、クラスの状況を伝え、意見交換や交流を図っています。保護者の相談については、更衣室または休憩室を使用し、保護者のプライバシーを守るよう配慮し、相談を受けた職員は園長、主任に報告し、適切に対応できるよう助言を受け、必要により園長、主任が同席しています。相談内容は記録し、必要に応じて継続的なフォローができるよう配慮しています。

●園生活に関する情報は毎月、園だよりを発行し、月により掲載内容を考慮して情報を伝えています。園内での情報提供は、クラス便りや、クラスホワイトボード、連絡ノート、出席カードで伝えています。また、ホームページのブログで園の活動内容の写真を見ることができ、自主的な購入も可能としています。フェイスブックでも日常の子どもの様子を伝えています。クラス懇談会では、保育内容・目的について、資料を交え、園での様子をわかりやすく伝えています。欠席者には、懇談会の内容を書面にし、資料や口頭で伝えています。

●保護者の保育参加について、園では、今年度から保育参加を受け入れ、年2回（6月、11月）に保護者選択にて受け入れています。希望に応じて個人面談も受け付けています。「夏祭り」には多くの参加があり、保育参加がしやすいように配慮しています。

●園では、保護者会は設定していませんが、運営員会があり、懇談会に併せて開催しています。運営委員会は民生委員、主任児童委員、本部責任者を構成とし、保護者も参加し、意見交換を図っています。保護者の自主的な活動は特にありませんが、要請があれば協力できる体制があり、保護者とのコミュニケーションは良好です。

評価分類	評価の理由(コメント)
<p>III-1 地域のニーズに応じた子育て支援サービスの提供</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ●地域の子育て支援サービスのニーズを把握する取り組みでは、釜利谷地区地域子育て連絡会（区の保健師が中心となり、育児サークル、学童保育等との意見交換会）、関係機関や他施設との検討会・研究会に参加し、地域の子育て情報を把握しています。また、区の子育て支援事業（いきいきフェスタ、スポーツフェスティバルなど）に参加し、講習、研修会に協力し、情報・ニーズを収集しています。育児相談では園見学者から相談に応じ、要望があった場合は、都合に合わせて柔軟に個別対応をしています。 ●地域の子育て支援ニーズは、釜利谷地区地域子育て連絡会に参加して収集した情報を職員会議で話し合っています。地域での子育てを支援するため、交流保育を地域に呼びかけ、園庭開放、育児相談は金沢区役所の広報「きらきらマップ」に掲載し、お菓子作り講座はポスターを掲示し、チラシを配布しています。金沢区の取り組みである「赤ちゃんの駅」を実施し、おむつ交換、授乳の場の提供を行う等、地域の子育てに尽力しています。園の子育て支援事業では、産休明け保育、障害児保育、交流保育を実施しています。また、園の行事（七夕、夏祭り）の案内を町内会の掲示板に掲載させてもらっています。
<p>III-2 保育園の専門性を活かした相談機能</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ●地域住民に対する園の情報提供については、育児相談があることを園見学者に周知し、入園に関する情報も提供しています。育児支援のお知らせや保育園情報は、金沢区子育て情報サイト、広報よこはま金沢区版に詳細に掲載され、分かりやすく情報が提供されています。 ●相談内容による関係機関との連携では、地域の団体のリストを整備し、関係機関（金沢区役所福祉課、区の保健師、南部地域療育センター、南部児童相談所、警察、消防署、嘱託医等）とは密に連携を図り、担当は園長または主任としています。

評価分類	評価の理由(コメント)
<p>IV-1 保育園の地域開放・地域コミュニティへの働きかけ</p> 	<p>●地域への園の理解促進のための取り組みとして、行事（七夕、夏祭り）に地域の方々を招き、園の取り組みや子どもの様子を見てもらう機会を設け、参加者にはおやつを試食を兼ねた軽食をふるまっています。また、幼保小連絡会の連携、町内会、小学校、ディサービス施設との交流を図り、小学校の体育館を借用し、運動会を行い、公園を利用した際はゴミ拾いをする等、地域への働きかけを行っています。さらに、地域での買い物や散歩の道中では地域の方に積極的に挨拶を行い、クリスマスにはカードを配る等、親しく交流しています。さらに、区の子育て支援事業の参加を通して、広域での友好関係が築けるよう努めています。</p> <p>●子どもと地域との交流では、幼保小での交流活動（幼児）や、近隣の保育園との交流、高齢者施設と交流を図り、地域の様々な人と交流する機会を設けています。地域の祭り（どんど焼き）や区のイベントに参加し、子どもたちは楽しんでいます。</p>
<p>IV-2 サービス内容等に関する情報提供</p> 	<p>●園のサービス内容・保育方針などの情報提供は、金沢区・園のホームページ、区の広報に掲載し、園のパンフレットを園見学者に渡しています。また、横浜市の「ヨコハマはびねすぽっと」でも情報を提供し、区役所、関係機関にパンフレットを置いています。入園のしおりには、保育内容の情報と共に、保育料についても記載しています。園見学・問い合わせに関しては、電話では常時対応を行い、利用希望者に見学ができることを案内し、見学時には必要に応じて園児と一緒に遊ぶなど、保育体験ができるようにしています。園見学者には都合に合わせて対応し、パンフレットに沿って説明しています。</p>
<p>IV-3 ボランティア・実習の受け入れ</p> 	<p>●ボランティアの受け入れでは、大学のボランティア、実習生が実習後にボランティアにきて受け入れています。受入れでは、マニュアルを用意し、担当者は主任または園長、クラス担任とし、事前オリエンテーションを行い、保育方針、心得、留意事項を説明し、理解を促しています。職員および保護者にも伝え、理解を示してもらっています。終了後は、反省会を設け、感想や意見を園運営に反映させています。</p> <p>●実習生の受け入れでは、マニュアルにより事前オリエンテーションを行い、受け入れおよび育成担当者は主任とし、保育方針、心得、留意事項の理解を促しています。受け入れにあたっては、職員の共通認識を行い、子ども・保護者に知らせています。実習では、学校</p>

の要望を聞き、実習が効果的に行われるようにプログラムを工夫しています。最終日には反省会を行い、実習生の感想や気づきをまとめ、保育士の育成に貢献できるよう努めています。

評価領域 V 人材育成・援助技術の向上

評価分類	評価の理由(コメント)
<p>V-1 職員の人材育成</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ●人材の確保については、法人本部で必要な人材の補充を逐次実施しています。人材育成については、人材育成計画を策定し、系列全園で実施しています。年2回、面談シートに沿って園長との面談を行い、年1回は法人保育事業本部との面談を実施しています。正規職員は人材育成制度があり、各職位（ユース、管理者、専門職等）の年間目標を設定し、計画を立案して年度末には達成状況や反省を確認し、資質向上を図っています。 ●研修体制については、大研修（年2回）、小研修（隔月）、外部研修（不定期）を設け、経験年数や役割に応じて、正規職員、非常勤職員が選択して受講できるようにしています。時間外の研修設定もあり、非常勤職員が参加できない場合は、研修報告書を閲覧して共有化を図っています。研修報告書は、全職員で情報を共有し、職員会議で議題として取り上げて学習する機会を設けています。研修内容は評価し、目的に合った研修を見直しています。 ●非常勤職員の配置や業務内容については、必ず、正規職員と非常勤職員の組み合わせとし、毎月、非常勤職員のミーティングを設け、併せて教育も行い、必要な知識と情報を提供し、業務の変更点も確認しています。また、研修報告書を確認して正規職員と共有化を図り、資質向上を目指しています。園長は、非常勤職員から要望や意見を聞き、コミュニケーションを図り、園の円滑な業務につなげています。
<p>V-2 職員の技術の向上</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ●園では人事考課制度に沿って、目標を決め、「保育士の自己評価」を行っています。年間指導計画に沿って、保育日誌、実践記録からも自己評価を行い、自己評価チェックを活用して1年間を振り返り、翌月・翌年の保育につなげています。職員は、保育の柱であるモンテッソーリ教育について社内外の専門家から手法を学び、系列他園の事例を検討して、質の向上に取り組んでいます。 ●保育や業務の計画および記録を通して、職員自らの実践を評価し、改善に努める仕組みがあり、次期の年間・月間指導計画につなげています。また、子どもの一人一人の育ちや意欲、取り組み過程を重視して保育の自己評価を行っています。

	<p>●「保育所の自己評価」について職員会議で話し合い、保育士の自己評価の結果を元に、保育所の課題の明確化を図り、改善に取り組んでいます。保育所の自己評価では、園の理念や保育方針、保育課程に沿って実施し、保育所の自己評価は年度末に園内に掲示して公開しています。今年度は、第三者評価を受審し、職員全員が自己評価票に自己の振り返りと共に取り組み、職員会議等で協議を図り、園全体の現状を把握し、改善課題を抽出して取り組みました。</p>
<p>V-3 職員のモチベーション維持</p> 	<p>●「自己評価チェックリスト」に、経験・能力・職位に応じた役割が期待水準として明文化されています。保育士には、業務分担表にリーダーの設定と、可能な限り権限を委譲し、責任を明確化しています。園では、改善ノートを作成し、改善すべきことを明確化し、改善を進めるための下支えはできています。また、職員からの業務改善提案については、会議で自発的に進められています。法人本部で年1回、職員アンケートを実施し、各職員の近況を把握し、意見を吸い上げています。アイン金沢文庫保育園では、子どもも保育士も主体的に進めることを大切に考えて取り組んでいます。例えば、モンテッソーリの研修を受講した保育士は、自発的に講師を努めるなど成果を発揮しています。園長は、年2回、全職員と面談を行い、個々の半期目標の達成度（自己評価）と併せて職員の満足度についても把握しています。</p>

評価領域 VI 経営管理

評価分類	評価の理由(コメント)
<p>VI-1 経営における社会的責任</p> 	<p>●職員の守るべき規範は、「運営マニュアル」に明文化され、職員に周知しています。経営、運営状況は、法人のホームページで公開されており、事業計画・事業報告については要求に応じて開示しています。法人の園長会、区の園長会議などで収集したコンプライアンス事例を題材に研修を行い、職員は職員会議やミーティングで守るべき規範について再確認し、改善の指針にしています。</p> <p>●環境整備では、モンテッソーリの環境配慮の考え方を明文化し、リサイクルや分別では、ゴミ分別は子どもたちと共に実施し、ゴミは産業廃棄業者を利用しています。省エネ対策としては、節電や、裏紙再利用、冷暖房の設定温度に注意を促し、廃材は保育で活用し、実践しています。緑化推進については、グリーンカーテンを育て、植物の栽培を楽しみながら緑化を進めています。アイン金沢文庫保育園は、よこはま ECO 保育所の指定を受けています。</p>

VI-2 施設長のリーダーシップ・主任の役割等



●理念・基本方針は明文化し、玄関に掲示し、来園者や保護者などが目に触れるようにしています。職員に対しては、配布を行い、朝礼、会議等でわかりやすく説明し、周知しています。園長は職員の面接時（年2回）に、理念・基本方針の理解度を確認し、意識統一に努めています。

●重要な意思決定について、園長は、職員、保護者に情報提供と共に説明を行い、理解を促しています。仕組みでは、異なる部門の複数職員で検討チーム（法人企画課等）を編成し、組織全体で決定する体制作りを構築しています。重要な変更事項については、今回、異年齢グループによる保育体制の変更について、懇談会で保護者に丁寧に説明し、理解を求めました。

●主任クラスの育成は、法人本部の人材育成計画に主任育成プログラム、キャリアパス制度が設けられています。園では、横浜市の主任・リーダー研修や、金沢区のイベント企画等の研修に参加しています。さらに、主任会議や研修会では主任の役割やカウンセリング手法を学べる体制を整えています。主任は、各職員の業務状況の把握を行い、保育援助体制の調整に努め、各職員の能力や経験に応じた的確な助言・指導を行い、個々の職員の健康に配慮する等、まとめ役およびパイプ役となり、円滑な園運営に尽力しています。

VI-3 効率的な運営



●園運営に関する最新の情報や事業運営に影響ある情報については、園長会、公私合同連絡会、幼保小連絡会、子育て支援連絡会、法人園長会議などに出席し、情報を収集・分析しています。関係機関、団体などから情報を収集し、運営に生かしています。重要な情報は、会議等で話し合い、職員間で共有しています。運営面での重要な改善課題は、法人本部から指示を受け、職員には職員会議を通して意思統一を図り、園全体で取り組んでいます。

●中・長期計画については、法人本部で3年間の事業の方向性が決定され、運営やサービスプロセスの新たな仕組みを常に検討しています。園では異年齢保育を取り入れ、保育体制を強化して進めています。

●次世代の育成では、計画的に後継者を育成しています。外部からの助言・指導等については、法人顧問弁護士、英語講師、第三者委員などの意見を取りいれて運営に生かすように努めています。

アイン金沢文庫保育園保育園

(株)R-CORPORATION

*調査日程	観察調査	2015年1月14日・1月15日
	本人調査	2015年1月15日
*保育観察	調査員3名で全クラスの視察、観察を行いました。生活の保育観察を行い、散歩に同行し、午睡の様子と保育観察を継続する中、食事(1日目)を園児と一緒にいき、保育士、園児のかかわり合いの様子観察を行いました。本人面接は2日目に実施しました。	
*利用者本人調査の方法	異年齢グループの「だいち」、「おひさま」から11名を選定してもらい、11名と一緒に30分程度、質問6項目のインタビューを実施し、子ども一人一人の意見を聞き、集計・分析し、子どもの姿を通して園生活、保育士とのかかわり等を確認しました。また、大きく項目を分け、遊び中心とした保育園での生活、食育を通じた子どもの成長と家庭との連携、そして社会生活の面について考察しました。	
*属性	だいちグループ6名、おひさまグループ5名、男児4名・女児7名 年齢別では、4歳児：男児2名・女児3名/5歳児：男児2名・女児4名に、質問しました。	

利用者（園児）本人調査結果

1. 【保育園での生活】

園内にはアイン保育園の特徴でもある自社遊具（プルチノ）を含む、モンテッソーリ・メソッドの遊具を活用して教育を展開しています。子どもたちのインタビューでは、遊びについて質問しました。「好きな遊びは何ですか？」に、4歳児は、「縄跳び」、「レゴブロック」、「カルタ」、「お絵かき」、「鬼ごっこ」などが挙がり、季節も1月であり、行事遊びでのカルタは楽しかったのでしょうか。5歳児では、「カルタ」、「氷鬼」、「鬼ごっこ」、「コマ」などが挙がり、お正月遊びや、元気いっぱい体を動かして遊んでいる様子がうかがえました。園の近所に公園もありますが、有名な金沢文庫がある称名寺と、その背後にある称名寺市民の森や、海の公園、赤井温泉の近くにある赤井谷公園など、自然と歴史のある地域の文化を活用し、子どもたちは生き生きと遊んでいます。園の雰囲気はアットホームであり、保育士は、子どもたちに温かく接し、さらに、地域の子育て支援に協力し、金沢区の「赤ちゃんの駅」に取り組み、近隣の子育てにも園の子どもたち同様、協力する姿勢が保育士から伝わってきました。

2. 【食育に関する保育】

厨房は、法人系列全園で給食を委託（栄養士・調理師）して活用し、栄養士共々、協同で食育に取り組んでいます。月1回、特別メニューとして、子どもが好み、旬の食材を生かしたメニューが提供されています。お正月には全園児でおせちを料理作りに取り組みを行い、0歳児はおせちを見る経験を、1歳児は一部調理のお手伝いを行い、2歳児以上は調理師が援助し、子どもたちが作り、盛り付けを行いました。毎日の取り組みとして、おひさま、だいちの両グループは交代で、保育士の指導のもとお米をとぎ、ご飯を炊く取り組みが行われています。インタビューでは、「好きな食べ物は何ですか？」と質問すると、4歳児は、「野菜」、「パフェ」、「納豆」、「りんご」、「梨」、「スイカ」、「餃子」、「スパゲティ」など野菜、果物が多く挙がりました。5歳児では、「魚」、「唐揚げ」、「卵」、「りんご」、「スイカ」、「柿」、「バナナ」、「桃」、「メロン」、「苺」、「お味噌汁」、「餃子」、「梨」、「納豆」、「スパゲティ」、「カレーライス」、「ごぼう」などが好きと答えてくれました。11人一緒に聞いたので、連鎖のように果物がたくさん挙がり、子どもも元気よく答え、楽しいひと時になりました。

3. 【社会生活について】

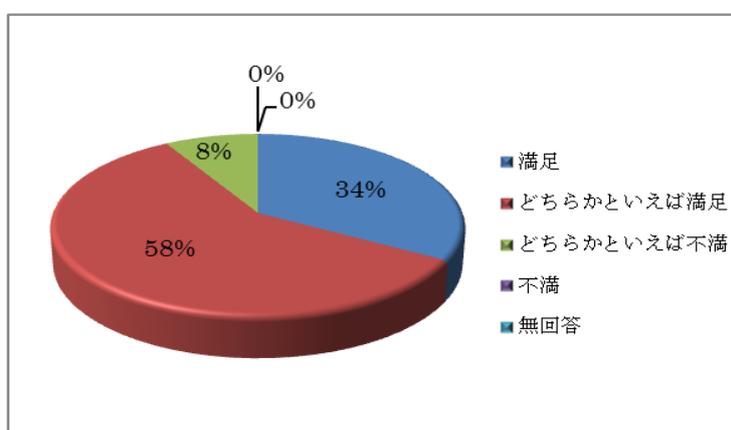
社会生活では、トイレ、子ども同士の関わり合い、保育士とのコミュニケーションなどがあります。トイレについては、4歳、5歳児ともトイレに行く前に、先生（保育士）には言うてから行くとの返答で、園でのルールがきちんと守られていることがわかりました。また、給食の前や、お散歩の前にはトイレに行っていると話してくれました。ケガについては、「絵本で指を切った」、「硬いところにぶつけた」、「膝をぶつけて血が出た」など、みんな、ケガをした経験があるようでしたが、ケガや熱がある時は先生（保育士）に言い、処置をしてもらい、絆創膏を貼ったりしてもらっているようです。保育士について聞いてみると、子どもたちは、「先生はやさしい」、「怖くない」、「悪いことをすると怒る」、「可愛い」、「好き」などの意見を聞かせてくれ、みんなは保育士に信頼を置き、身近に感じ、好きな様子がわかりました。園長先生については、一度も怒られたことはなく、話したことがあり、優しいと感じている様子で、5歳児は、朝のお休み調べを行い、園長先生に報告していることを教えてくれました。子どもたちは、保育士を信じ、大人の社会を知り、他人に対するルール、人・ものに対する「思いやり」を学び、保育士も子どもたちを受け止め、毎日、楽しく園生活を過ごしていることが確認できました。

【アイン金沢文庫保育園 利用者アンケートの特徴】

実施年度 / 評価項目手法	27年度 / 横浜市版
アンケート調査対象	アイン金沢文庫保育園利用者家族 (世帯数 52)
有効回答数	24世帯
世帯総数に対する回答者割合 (%)	46%

0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児
4世帯	5世帯	7世帯	2世帯	5世帯	1世帯

*回答があった利用者満足度の内訳 (%)



●利用者アンケートの特徴として、比較的、「日常の保育内容「生活」について」での項目が高い満足度を示しています。一番『満足』が高い項目は、「給食の献立内容について」、「お子さんが給食を楽しんでいるかについて」、「基本的な生活習慣の自立に向けての取り組み」であり、満足は54%となっています。その中でも、「昼寝や休憩がお子さんの状況に応じて対応されているか等について」では、満足50%、どちらかといえば満足は50%であり、満足、どちらかといえば満足を合わせて（以下、合わせて）100%ほぼ満足を得ています。全体的に満足、安心感につながっている高い項目では、「お子さんが落ち着いて過ごせる雰囲気について」が、満足29%、どちらかといえば満足71%であり、合わせて100%ほぼ満足している結果となっています。また、「お子さんが保育園生活を楽しんでいるか」については、満足が50%、どちらかといえば満足46%、どちらかといえば不満4%ありますが、合わせて96%がほぼ満足となっています。「遊びを通じた友だちとの関わりや、保育士との関係について」は、満足38%、どちらかといえば満足58%、不満4%ありますが、合わせて96%がほぼ満足という結果となっています。

アンケートからの意見では、園の情報提供の改善が図られている点や、職員の一生懸命さ、職員からの温かい声掛けが安心につながっている等、保護者から感謝の声が挙がっています。また、子どもが保育園に行くのを楽しみにしている、園の環境が清潔で安心できる等、喜びの意見や、年齢に応じたモンテッソーリの教育にも賛同の声をいただいています。

●「不満」での回答は比較的少ないですが、保護者の要望を含め、どちらかといえば不満を感じるという項目では、「子どもが戸外遊びを十分にしているか」についてが、満足 17%、どちらかといえば満足 38%、どちらかといえば不満は 29%、不満 17%であり、ほぼ満足は 55%となっています。アンケートの意見からも比較的、戸外遊びについての意見・要望が挙がっています。また、「年間の保育や行事に、保護者の要望が活かされているかについて」が、満足 33%、どちらかといえば満足 33%、どちらかといえば不満は 29%、不満 4%であり、ほぼ満足が低い項目となっております。「感染症の発生状況や注意事項などの情報提供について」では、満足 25%、どちらかといえば満足 46%、どちらかといえば不満 25%、不満 4%という結果になっています。さらに、園の保育目標・保育方針について、「よく知っている」という回答は 0%であり、「まあ知っている」、「どちらともいえない」という回答が比較的多くありました。園では、理念、方針、保育目標に沿った保育を実施し、一人一人の子どもに応じた対応に努め、保育の取り組みの成果が保護者の満足、安心感につながり、喜びの声もいただいている反面、回答では保育目標と日々の保育とのつながりの理解・浸透の希薄さが見受けられますので、周知・理解の促しのさらなる工夫が期待されます。アンケートの意見からは、保護者のさらなる期待として、戸外遊びの要望、保護者アンケートのフィードバック、1日の保育の様子の情報提供等についての意見をいただいています。情報提供については、改善された保護者の安心感をさらに、職員間の連携・共有を強化し、統一ある職員の対応・接遇等の見直しを図られることを期待いたします。

●総合的に、『満足』は 34%の支持を頂き、『どちらかといえば満足』は 58%、『どちらかといえば不満』8%であり、サービスの内容について、92%ほぼ『満足』していると、捉えることができます。

調査結果

アイン金沢文庫保育園

■ 保育園の基本理念や基本方針について

あなたは、この園の保育目標・ 保育方針をご存知ですか	よく知って いる	まあ知って いる	どちらとも いえない	あまり知ら ない	まったく 知らない	無回答
	(人) 0	16	6	2	0	0
	(%) 0%	67%	25%	8%	0%	0%



あなたは、その保育目標や保育 方針は賛同できるものだと思いますか	賛同できる	まあ賛同 できる	どちらとも いえない	あまり賛同 できない	賛同でき ない	無回答
	(人) 7	10	0	0	0	7
	(%) 29%	42%	0%	0%	0%	29%

■ 保育園のサービス内容について

問2 入園する時の状況について

	満足	どちらかと いえば満足	どちらかと いえば不満	不満	その他	無回答
見学の受け入れについては	6	12	1	0	4	1
	25%	50%	4%	0%	17%	4%
	・見学していない。(4) ・入園する時のこと忘れしました。					
入園前の見学や説明など、園 からの情報提供については	7	11	4	0	2	0
	29%	46%	17%	0%	8%	0%
	・入園する時のこと忘れしました。					
園の目標や方針についての 説明には	5	16	2	0	1	0
	21%	67%	8%	0%	4%	0%
	・入園する時のこと忘れしました。					
入園時の面接で、お子さんの様子 や生育歴などを聞く対応については	10	12	1	0	1	0
	42%	50%	4%	0%	4%	0%
	・入園する時のこと忘れしました。					

保育園での1日の過ごし方についての説明には	9	11	2	1	1	0
	38%	46%	8%	4%	4%	0%
	・入園する時のこと忘れしました。					
費用やきまりに関する説明については	9	10	4	0	1	0
	38%	42%	17%	0%	4%	0%
	・延長料金や夕食、捕食について説明不足の点があった。 ・入園する時のこと忘れしました。					

問3 保育園に関する年間の計画について

	満足	どちらかといえは満足	どちらかといえは不満	不満	その他	無回答
年間の保育や行事についての説明は	9	10	3	2	0	0
	38%	42%	13%	8%	0%	0%
	・通知が遅い。 ・来月の予定は口頭でも教えてほしい。					
年間の保育や行事に、保護者の要望が活かされているかについては	8	8	7	1	0	0
	33%	33%	29%	4%	0%	0%

問4 日常の保育内容について

「遊び」について

	満足	どちらかといえは満足	どちらかといえは不満	不満	その他	無回答
クラスの活動や遊びについては (お子さんが満足しているかなど)	10	12	1	1	0	0
	42%	50%	4%	4%	0%	0%

子どもが戸外遊びを十分しているか については	4	9	7	4	0	0
	17%	38%	29%	17%	0%	0%
	・少ないように思う。					
園のおもちゃや教材については (お子さんが自由に使えるように 置いてある、年齢にふさわしいか など)	9	13	2	0	0	0
	38%	54%	8%	0%	0%	0%
	・入園する時のこと忘れしました。					
自然に触れたり地域に係わる などの、園外活動については	10	9	3	1	1	0
	42%	38%	13%	4%	4%	0%
	・年齢的にまだだと思うので。					
遊びを通じた友だちとの関わり や、保育士との関係については	9	14	0	1	0	0
	38%	58%	0%	4%	0%	0%
遊びを通じたお子さんの健康 づくりへの取り組みについては	7	10	5	1	1	0
	29%	42%	21%	4%	4%	0%
	・わからない。 ・そういうことをしているかどうか、わからない。					

「生活」について

	満足	どちらかと いえば満足	どちらかと いえば不満	不満	その他	無回答
給食の献立内容については	13	10	0	1	0	0
	54%	42%	0%	4%	0%	0%

お子さんが給食を楽しんでいるかについては	13	9	1	1	0	0
	54%	38%	4%	4%	0%	0%
基本的な生活習慣(衣服の着脱、手洗いなど)の自立に向けての取組みについては	13	9	1	0	1	0
	54%	38%	4%	0%	4%	0%
	・わからない。					
昼寝や休憩がお子さんの状況に応じて対応されているかなどについては	12	12	0	0	0	0
	50%	50%	0%	0%	0%	0%
おむつはずしは、家庭と協力しお子さんの成長に合わせて柔軟に進めているかについては	12	10	1	0	1	0
	50%	42%	4%	0%	4%	0%
	・・はずしてから通い始めたため、わかりません。					
お子さんの体調への気配りについては	9	13	2	0	0	0
	38%	54%	8%	0%	0%	0%
保育中にあったケガに関する保護者への説明やその後の対応には	7	11	6	0	0	0
	29%	46%	25%	0%	0%	0%
	・・はずしてから通い始めたため、わかりません。					

問5 保育園の快適さや安全対策などについて

	満足	どちらかと いえば満足	どちらかと いえば不満	不満	その他	無回答
施設設備については	9	13	1	1	0	0
	38%	54%	4%	4%	0%	0%
お子さんが落ちついて過ごせる 雰囲気については	7	17	0	0	0	0
	29%	71%	0%	0%	0%	0%
外部からの不審者侵入に対 する備えについては	7	12	3	2	0	0
	29%	50%	13%	8%	0%	0%
感染症の発生状況や注意事項 などの情報提供については	6	11	6	1	0	0
	25%	46%	25%	4%	0%	0%
	・園児の感染状況が貼り出されることがあるが、更新されないままのことが多い。					

問6 園と保護者との連携・交流について

	満足	どちらかと いえば満足	どちらかと いえば不満	不満	その他	無回答
保護者懇談会や個別面談など による話し合いの機会については	10	12	2	0	0	0
	42%	50%	8%	0%	0%	0%
園だよりや掲示などによる、園 の様子や行事に関する情報 提供については	8	9	4	2	1	0
	33%	38%	17%	8%	4%	0%
	<ul style="list-style-type: none"> ・遅い。更新されないことも多い。 ・その日の行動は毎日お知らせがあると嬉しい。 ・1～2度、配布忘れがありました。 					

園の行事の開催日や時間帯への配慮については	13	8	2	1	0	0
	54%	33%	8%	4%	0%	0%
送り迎えの際のお子さんの様子に関する説明については	9	9	5	1	0	0
	38%	38%	21%	4%	0%	0%
	・先生の差もありますが…淡泊かな。					
お子さんに関する重要な情報の連絡体制については	7	13	3	1	0	0
	29%	54%	13%	4%	0%	0%
保護者からの相談事への対応には	11	11	2	0	0	0
	46%	46%	8%	0%	0%	0%
	・職員による。スキルの差を感じることもある。					
開所時間内であれば柔軟に対応してくれるなど、残業などで迎えが遅くなる場合の対応には	14	7	1	0	2	0
	58%	29%	4%	0%	8%	0%
	・そういった機会がなかった。(2)					

問7 職員の対応について

	満足	どちらかといえは満足	どちらかといえは不満	不満	その他	無回答
あなたのお子さんが大切にされているかについては	10	13	1	0	0	0
	42%	54%	4%	0%	0%	0%

あなたのお子さんが保育園 生活を楽しんでいるかについては	12	11	1	0	0	0
	50%	46%	4%	0%	0%	0%
アレルギーのあるお子さんや 障害のあるお子さんへの配慮 については	9	10	0	0	5	0
	38%	42%	0%	0%	21%	0%
話しやすい雰囲気、態度で あるかどうかについては	11	12	1	0	0	0
	46%	50%	4%	0%	0%	0%
意見や要望への対応 については	9	12	2	1	0	0
	38%	50%	8%	4%	0%	0%

問8 保育園の総合的評価

	満足	どちらかと いえば満足	どちらかと いえば不満	不満	無回答
総合満足度は	8	14	2	0	0
	33%	58%	8%	0%	0%

調査対象園舎： アイン金沢文庫保育園

横浜市金沢区釜利谷東2丁目19-35

回答世帯数：52世帯中24世帯 <0歳児(4世帯)、1歳児(5世帯)、2歳児(7世帯)、3歳児(2世帯)、4歳児(5世帯)、5歳児(1世帯)>

定員：79名

調査期間：2015/05/15 ~ 2016/01/15

